

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年12月11日

**【四半期会計期間】** 第10期第2四半期(自 平成25年8月1日 至 平成25年10月31日)

**【会社名】** 株式会社スリー・ディー・マトリックス

**【英訳名】** 3-D Matrix,Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 高村 健太郎

**【本店の所在の場所】** 東京都千代田区麹町三丁目2番4号

**【電話番号】** 03-3511-3440

**【事務連絡者氏名】** 取締役 新井 友行

**【最寄りの連絡場所】** 東京都千代田区麹町三丁目2番4号

**【電話番号】** 03-3511-3440

**【事務連絡者氏名】** 取締役 新井 友行

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第9期 第2四半期 連結累計期間	第10期 第2四半期 連結累計期間	第9期
会計期間	自 平成24年5月1日 至 平成24年10月31日	自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日	自 平成24年5月1日 至 平成25年4月30日
事業収益 (千円)		49,375	32,013
経常損失( ) (千円)	457,904	701,346	977,511
四半期(当期)純損失( ) (千円)	458,273	701,912	978,331
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	457,741	698,284	976,287
純資産額 (千円)	2,465,715	3,798,767	2,065,625
総資産額 (千円)	2,672,557	4,530,713	3,020,437
1株当たり四半期(当期) 純損失金額( ) (円)	24.88	36.19	52.63
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	91.3	81.9	67.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	10,296	930,540	655,715
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	26,868	37,347	56,009
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	86,715	2,050,116	983,049
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,806,969	3,119,610	2,033,363

回次	第9期 第2四半期 連結会計期間	第10期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年8月1日 至 平成24年10月31日	自 平成25年8月1日 至 平成25年10月31日
1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	12.26	18.29

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 事業収益には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。
4. 当社は、平成24年9月1日付けで普通株式1株につき2株及び平成25年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純損失金額を算定しております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析は、以下のとおりであります。文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間において、当社グループは主要技術である自己組織化ペプチド技術による医療製品の開発に引き続き注力しております。

吸収性局所止血材（TDM-621）については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下「PMDA」という。）による製造販売承認申請に係る審査が継続しております。当社は、TDM-621の海外展開に向け、積極的に事業を推進しております。欧州地域においては、CEマークの申請を行い第三者認証機関による審査がおこなわれております。CEマークの承認後のEU地域、その他地域の展開に向けた各国の規制等についても調査を進めております。米国においては、米国国内における治験の開始に向け、米国食品医薬品局（以下「FDA」という。）と協議を進めております。アジア地域においては、平成25年5月に当社のシンガポール子会社3-D Matrix Asia Pte. Ltd. がインドネシアPT. Teguhindo Lestari tamaとインドネシアにおけるTDM-621の独占販売権許諾契約を締結いたしました。今後は、インドネシアにおける製造販売承認の取得、中国、シンガポール、オーストラリアを含むアジア・オセアニア地域への展開に向け準備を進めてまいります。

歯槽骨再建材（TDM-711）については、米国において15症例の施術が完了し、経過観察を実施しております。当該経過観察の結果をもとにFDAと協議を進めております。

粘膜隆起材（TDM-641）については、臨床試験の開始に向け、PMDAと協議を進めておりません。

このような結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、事業収益は49,375千円（前年同四半期比49,375千円増加）、経常損失701,346千円（前年同四半期は経常損失457,904千円）、四半期純損失701,912千円（前年同四半期は四半期純損失458,273千円）となりました。また、いずれも当初の事業計画より大きな乖離は生じておりません。

なお、当社グループの事業は単一セグメント（医療製品事業）であるため、セグメントごとの記載はしていません。

## (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間における総資産は4,530,713千円（前連結会計年度末比1,510,275千円の増加）となりました。

流動資産につきましては、4,004,514千円（同1,520,534千円の増加）となりました。これは主に、現金及び預金の増加1,086,246千円及びたな卸資産の増加337,184千円によるものです。

固定資産につきましては、526,199千円（同10,258千円の減少）となりました。これは主に、無形固定資産のその他に含まれる特許実施権の増加8,364千円及び有形固定資産に含まれる工具、器具及び備品の増加8,030千円があるものの、無形固定資産であるのれん償却額による減少35,000千円によるものです。

負債につきましては、731,945千円（同222,865千円の減少）となりました。これは主に、流動負債のその他に含まれる前受金の増加50,600千円があるものの、短期借入金の減少300,000千円によるものです。

純資産の部につきましては、3,798,767千円（同1,733,141千円の増加）となりました。これは主に、公募増資等による資本金の増加1,188,202千円及び資本剰余金の増加1,188,114千円によるものです。

## (3) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間の事業収益は49,375千円となりました。これは、契約一時金によるものです。

事業費用につきましては、研究開発費の増加等により726,090千円となりました。このような結果、営業損失は676,714千円となりました。

また、営業外費用につきましては、支払利息6,176千円及び株式交付費15,585千円を計上したこと等により26,633千円となりました。このような結果、経常損失は701,346千円、四半期純損失は701,912千円となりました。

## (4) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前四半期純損失の計上及び公募増資による株式の発行による収入等により、前連結会計年度末に比べ、1,086,246千円増加し、3,119,610千円となりました。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、減少した資金は930,540千円（前年同四半期は10,296千円の資金の減少）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純損失701,346千円及びたな卸資産の増加337,184千円によるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、減少した資金は37,347千円（前年同四半期は26,868千円の資金の減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出7,518千円及び無形固定資産の取得による支出15,693千円並びに長期前払費用の取得による支出9,391千円によるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、増加した資金は2,050,116千円（前年同四半期は86,715千円の資金の増加）となりました。これは主に、短期借入金の純減額300,000千円があるものの、株式の発行による収入2,359,331千円によるものであります。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費の総額は282,655千円であり、主な研究開発活動として下記のとおり実施いたしました。

外科領域

A 吸収性局所止血材（TDM - 621）

日本国内においては、製造販売承認申請に係る、PMDAによる審査が継続しております。米国においては、臨床試験に向けた準備を進めております。欧州においては、CEマークの取得に向け、第三者認証機関による審査が継続しております。その他の地域については、インドネシアにおける製造販売承認の申請に向け準備を進めております。

B 粘膜隆起材（TDM - 641）、血管塞栓材（TDM - 631）

TDM - 641については、日本国内における臨床試験の開始に向け、有効性試験の実施、PMDAとの協議を進めております。また、TDM - 631については、前臨床試験を進め、必要なデータを収集しております。

再生医療領域

A 歯槽骨再建材（TDM - 711）

TDM - 711については、米国においてプロトコルで規定した15症例の施術が完了し、経過観察を実施しております。当該経過観察の結果をもとにFDAと協議を進めております。なお、TDM - 711を施術した症例については、インプラントに必要な歯槽骨が再生されていることが確認されております。

B 創傷治癒材（TDM - 511）

TDM - 511については、米国において前臨床試験を実施し、局所止血についての有効なデータを入手しております。今後は創傷治癒についての有効性に関するデータの収集を行っていく計画であります。

C その他の開発

独立行政法人新エネルギー・産業技術機構（NEDO）と生体内で自律的に成熟する臓器再生デバイスの実用化研究開発に係る共同研究を実施しております。また、平成25年5月に国立大学法人岡山大学と共同出願してありました自己組織化ペプチドを足場にして培養する方法とその応用に関する特許について、日本における特許が成立いたしました。当社は今後も本特許を活用して再生医療領域での研究開発を進めてまいります。

#### DDS領域

当社は、界面活性ペプチドを用い、国立がん研究センターと新規癌治療技術の開発に向けて共同開発を行っております。現在は、医師主導の臨床試験に向けた準備を進めております。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,672,000
計	60,672,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年10月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年12月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,794,800	19,794,800	東京証券取引所 JASDAQ市場 (グロース)	単元株式数は100株であります。
計	19,794,800	19,794,800		

(注) 提出日現在発行株式数には、平成25年12月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年8月1日～ 平成25年10月31日 (注)	163,200	19,794,800	21,680	3,327,602	21,640	3,317,514

(注) 新株予約権の行使による増加であります。



## (6) 【大株主の状況】

平成25年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
永野 恵嗣	東京都世田谷区	1,572,500	7.94
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,101,200	5.56
ニュー・メディア・ジャパン・ インコーポレイテッド	東京都足立区綾瀬1丁目6-13	983,800	4.97
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	727,900	3.68
佐々木 桂一	東京都渋谷区	719,300	3.63
扶桑薬品工業株式会社	大阪府大阪市中央区道修町1丁目7番10号	640,000	3.23
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目9-1	430,500	2.17
株式会社アイル	東京都板橋区小豆沢2丁目20-10	400,000	2.02
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	347,300	1.75
PERSHING - DIV . O F DLJ SECS . CORP . ( 常任代理人シテイ バンク銀行株式会社 )	ONE PERSHING PLAZA JERSEY CITY NEW JERSEY U.S.A ( 東京都品川区東品川2丁目3番14号 )	325,500	1.64
計		7,248,000	36.62

(注) 1. 上記所有者のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社 1,101,200 株

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 727,900 株

2. JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社およびその共同保有者であるジェー・エフ・アセットマネジメントリミテッド(JF Asset Management Limited)から平成25年9月24日付けで関東財務局長に提出された大量保有報告書の変更報告書により、平成25年9月13日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末における実質所有状況の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
JPモルガン・アセット・マ ネジメント株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7番3 号 東京ビルディング	1,619,100	8.18
ジェー・エフ・アセットマ ネジメントリミテッド(JF Asset Management Limited)	香港、セントラル、コーノート・ ロード8、チャーター・ハウス21階	233,700	1.18
ジェー・ピー・モルガン・ アセット・マネジメント (台湾)リミテッド (JP Morgan Asset Management(Taiwan) Limited)		27,700	0.14

3. 佐々木桂一氏およびその共同保有者である株式会社グローバルプロダクトプランニングから平成25年12月5日付けで関東財務局長に提出された大量保有報告書の変更報告書により、平成25年10月22日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末における実質所有状況の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
佐々木 桂一	東京都渋谷区	1,060,000	5.40
株式会社グローバルプロダクトプランニング	東京と渋谷区南平台町12- 8	29,700	0.15

## (7) 【議決権の状況】

### 【発行済株式】

平成25年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,789,000	197,890	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 単元株式数 100株
単元未満株式	5,700		
発行済株式総数	19,794,800		
総株主の議決権		197,890	

### 【自己株式等】

平成25年10月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社スリー・ ディー・マトリックス	東京都千代田区麹町三丁 目2番4号	100		100	0.00
計		100		100	0.00

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年8月1日から平成25年10月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年5月1日から平成25年10月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,033,363	3,119,610
売掛金	-	50,000
たな卸資産	<sup>1</sup> 260,703	<sup>1</sup> 597,887
その他	189,912	237,015
流動資産合計	2,483,979	4,004,514
固定資産		
有形固定資産	106,629	108,836
無形固定資産		
のれん	326,668	291,668
その他	56,605	67,494
無形固定資産合計	383,273	359,163
投資その他の資産	46,554	58,199
固定資産合計	536,457	526,199
資産合計	3,020,437	4,530,713
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	800,000	500,000
未払法人税等	3,647	7,410
その他	109,017	188,915
流動負債合計	912,664	696,326
固定負債		
その他	42,146	35,619
固定負債合計	42,146	35,619
負債合計	954,811	731,945
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,139,400	3,327,602
資本剰余金	2,129,400	3,317,514
利益剰余金	2,266,212	2,968,124
自己株式	59	59
株主資本合計	2,002,528	3,676,933
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	29,417	33,044
その他の包括利益累計額合計	29,417	33,044
新株予約権	33,680	88,789
純資産合計	2,065,625	3,798,767
負債純資産合計	3,020,437	4,530,713

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)
<b>事業収益</b>		
研究開発事業収益	-	49,375
<b>事業収益合計</b>	-	49,375
<b>事業費用</b>		
研究開発費	<sup>1</sup> 182,504	<sup>1</sup> 282,655
販売費及び一般管理費	<sup>2</sup> 269,943	<sup>2</sup> 443,434
<b>事業費用合計</b>	452,447	726,090
営業損失( )	452,447	676,714
<b>営業外収益</b>		
受取利息	147	235
補助金収入	-	1,046
その他	17	719
<b>営業外収益合計</b>	165	2,001
<b>営業外費用</b>		
支払利息	2,061	6,176
支払手数料	3,024	3,024
株式交付費	240	15,585
その他	295	1,846
<b>営業外費用合計</b>	5,621	26,633
経常損失( )	457,904	701,346
税金等調整前四半期純損失( )	457,904	701,346
法人税、住民税及び事業税	475	475
法人税等調整額	106	90
法人税等合計	368	565
少数株主損益調整前四半期純損失( )	458,273	701,912
四半期純損失( )	458,273	701,912

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	458,273	701,912
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	531	3,627
その他の包括利益合計	531	3,627
四半期包括利益	457,741	698,284
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	457,741	698,284
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	457,904	701,346
減価償却費	5,539	14,575
のれん償却額	35,000	35,000
受取利息	147	235
支払利息	2,061	6,176
支払手数料	3,024	3,024
為替差損益( は益)	1,777	763
株式交付費	240	15,585
株式報酬費用	6,946	56,508
売上債権の増減額( は増加)	532,251	50,000
たな卸資産の増減額( は増加)	112,673	337,184
前渡金の増減額( は増加)	54,264	18,830
前払費用の増減額( は増加)	4,659	5,846
未払金の増減額( は減少)	27,707	18,236
未払費用の増減額( は減少)	19,998	9,176
前受金の増減額( は減少)	32,000	50,600
未払消費税等の増減額( は減少)	32,601	-
その他	21,047	18,828
小計	7,432	924,149
利息の受取額	147	235
利息の支払額	2,061	6,176
法人税等の支払額	950	450
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,296	930,540
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	14,961	7,518
無形固定資産の取得による支出	775	15,693
長期前払費用の取得による支出	8,738	9,391
その他	2,392	4,744
投資活動によるキャッシュ・フロー	26,868	37,347
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	-	300,000
株式の発行による収入	28,360	2,359,331
セール・アンド・リースバックによる収入	67,200	-
リース債務の返済による支出	5,819	6,206
その他	3,024	3,008
財務活動によるキャッシュ・フロー	86,715	2,050,116
現金及び現金同等物に係る換算差額	481	4,018
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	49,068	1,086,246
現金及び現金同等物の期首残高	1,757,900	2,033,363
現金及び現金同等物の四半期末残高	<sup>1</sup> 1,806,969	<sup>1</sup> 3,119,610

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年10月31日)
原材料及び貯蔵品	260,703 千円	597,887 千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 研究開発費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)
給料手当	40,976 千円	56,441 千円
支払報酬	89,499 "	158,701 "
マテリアル費	42,066 "	31,009 "

2 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)
支払報酬	55,632 千円	99,475 千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高と当第2四半期連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)
現金及び預金勘定	1,806,969 千円	3,119,610 千円
現金及び現金同等物	1,806,969 "	3,119,610 "

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年5月1日 至平成24年10月31日)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)

株主資本の著しい変動

当社は、平成25年7月23日を払込期日とする公募による新株式発行を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が1,144,687千円、資本準備金が1,144,687千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が3,327,602千円、資本剰余金が3,317,514千円となっております。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年5月1日 至 平成24年10月31日)

当社グループは、単一セグメント(医療製品事業)のため記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)

当社グループは、単一セグメント(医療製品事業)のため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年5月1日 至 平成24年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)
1株当たり四半期純損失金額	24円88銭	36円19銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	458,273	701,912
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	458,273	701,912
普通株式の期中平均株式数(株)	18,416,523	19,394,373
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 当社は、平成24年9月1日付けで普通株式1株につき2株及び平成25年6月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年12月9日

株式会社スリー・ディー・マトリックス

取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高 木 勇 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 沖 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スリー・ディー・マトリックスの平成25年5月1日から平成26年4月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年8月1日から平成25年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年5月1日から平成25年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スリー・ディー・マトリックス及び連結子会社の平成25年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2．四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。